

# 学校だより 「花里の子」

令和7年度 第23号 (令和8年2月24日)

伊丹市立花里小学校長 小木曾 笑子

## 一日入学がありました

### ～ 相手を思いやる気持ちを育む ～

2月17日、4月に入学してくる子どもたちを迎えて、一日入学(新入生対象)と入学説明会(保護者対象)を行いました。

一日入学の担当は、1年生の子どもたちです。3学期に入ってから、新しい1年生が喜ぶ会にしたいと、1年生なりに考えてきました。「優しい話し方をしなきゃ。」とか、「道具は貸してあげないとね。」とか、「色鉛筆は先に選ばせてあげよう」とか・・・自分たちがしてもらって嬉しかったことを思い出しながら計画を立てていました。

当日は、少し緊張した表情でしたが、優しいお兄さん、お姉さんぶりを発揮してくれました。新しい1年生が、予定外の行動をしても、頑張っ合わせていました。相手を思いやる気持ちが育っていることを嬉しく感じます。



相手を思いやる言葉がけや行動は、人間関係を築くために必要な力です。学校は、集団生活をする場です。みんなで気持ちよく生活するために、一定のルールがあります。『みんなのためのルールブック～あたりまえだけど、とても大切なこと～』(著:ロン・クラーク 訳:亀井よし子 草思社)には、生き生きと学校生活を送るための50のルールが紹介されています。20年以上前に出版された本ですが、今でも、「当たり前」と感じるルールがたくさんあります。その中の一つに

**だれであれ、仲間はずれにしない**というルールがあります。著者は、「人間なんだから、なかには好きになれない人もいるものさ。それでも、自分の気持ちとは関係なく、どんな人にもやさしさと敬意をもって接しよう」と読者に語っています。「敬意」とは、相手の立場、人格、能力、成果などを認め、尊いものとして大切に思う気持ち、またはそれを言葉や態度で表す行為のことです。尊敬する気持ちに加え、相手を尊重し、大切に扱う心が含まれます。子どもたちは、「好き」か「嫌い」かを判断基準に言葉や行動を変えてしまいがちです。けれど「だれも仲間はずれにしない」ということは、好きでも嫌いでも同じ態度を取ることができるということです。少し難しいですが、いろいろな活動をとおして、子どもたちに「相手を思いやる気持ち」を育てていきたいと思えます。ご協力をお願いいたします。

### 河津桜が開花しました



# 研究発表会を行いました



2月13日の午後、伊丹市内の先生方にご来校いただき、2年生、4年生、6年生の授業を公開しました。本校は令和5年度から3年間「一人ひとりが主体的に学び、豊かに表現できる子の育成」という研究テーマで授業研究を行ってきました。その成果を発表すると共に、参加いただいた他校の先生方からご意見をいただきました。他校の先生方からいただいたご意見を真摯に受け止め、今後の花里小学校の授業づくりについて考えていきたいと思っています。

「子どもたちの表情が明るいですね。」  
「先生と子どもたちの関係の良さが伝わってきます。」  
「子どもたちが頑張っていることが伝わる掲示物が多くありました。」  
「子どもたちが主体的に学習に向かう姿が見られました。」



など、子どもたちと教員の頑張りに対して、たくさんのプラスの評価をいただくことができ嬉しく思います。しかし、課題も感じています。子どもたちが学びたいと感じる授業ができるよう、引き続き研修を重ねていきたいと思っています。

PTAの皆様にも案内や受付にお力を貸していただきました。また、見守りたいの皆様には、いつもと違う下校時刻に対応していただきました。ご協力ありがとうございました。



## 準備や片付けは、5年生が手伝ってくれました



3学期から、これまで6年生が担当していた行事の準備や片付けの仕事を5年生が引き継いでいます。



完成形をイメージし、担任の指示に従って動きます。2学期までは、事細かく指示が出ていましたが、今回は子どもたちが考えながら作業している姿が見られました。回を重ねるごとに、最高学年らしさを身につけているようです。

## 行事予定



行事予定は、まなびポケットで配信しています。